

NPO・社会起業家 マーケティング講座

事業内容が地域の課題解決に
繋がっていますか？

日時：2月8日(土)10:30~17:00

場所：「フリースペース はあもにい」
(千葉市緑区土気町 1727-4 JR 外房線土気駅 徒歩 2分)

講師：長浜洋二さん

NPO マーケティング研究所 代表
NPO マーケティングで社会を変える！
『草莽塾』塾長
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 理事
共同募金会モデル事業アドバイザー
ブログ『飛耳長目：アメリカに見る NPO 戦略のヒント』
主宰 (<http://blog.canpan.info/hijichomoku>)



対象：NPO スタッフ、社会起業家、自治体職員
定員：20名
参加費：5,000円

こんな人、団体におすすめ

- ◆マーケティングに関心がある。実践したい
- ◆すでに実践しているが、もっと成果を出したい
- ◆地域社会に役立つ事業を実現したい
- ◆寄付や会員を増やしたい
- ◆効果的な広報を知りたい
- ◆チラシ・パンフ等の反応を良くしたい
- ◆企業や行政に対する説得力をつけたい

お申し込み：NPO クラブ TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689 E-mail npo-club@par.odn.ne.jp

あなたの寄付が地域を変える。未来をつくる。
公益財団法人ちばのWA地域づくり基金

事業指定助成プログラム第1期・7事業
寄付の受け付けは3月31日まで！

応援したい事業を見つけて、ぜひ寄付を！

応援したいプロジェクトを選んで寄付できる「事業指定助成プログラム第1期」7事業の寄付を3月31日まで継続募集中です。いずれの事業も地域社会のニーズに沿った公益性の高い事業。ぜひ、応援したい事業へご寄付をお願いします。

※各事業の詳細、寄付の方法はホームページをご覧ください。
<http://chibanowafund.org>
公益財団法人ちばのWA地域づくり基金
TEL/FAX 043-270-4640
E-mail info@chibanowafund.org

災害時、NPOは どういう役割を 果たせるか？

被災地・被災者支援学習会

日時：3月4日(火)13:30~16:00

場所：千葉市ビジネス支援センター
会議室1 (千葉市中央区中央 4-5-1 きぼーる 13階)
(千葉駅徒歩 15分・京成千葉中央駅徒歩 5分)

定員：40名

参加費：500円

内容：

①講演「災害時のNPOの役割ー東日本大震災における全国のNPOの動き」
講師：栗田暢之さん
(NPO 法人レスキューストックヤード代表理事、東日本大震災支援全国ネットワーク代表世話人)



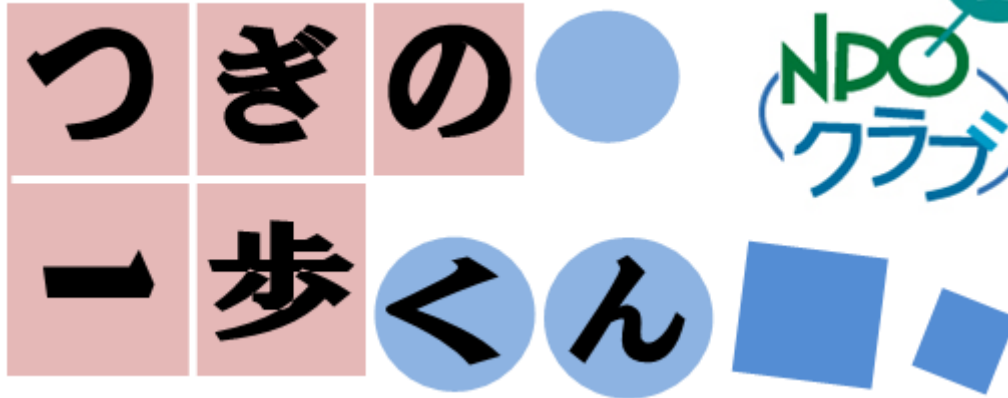
②報告
・NPO 法人スポーツアカデミー 金杉拓哉さん「震災後の旭市の状況からNPOの活動を考える」
・支援ネットワークきみつ 斉藤早苗さん「君津市周辺で暮らす東北3県の被災者支援活動」
・NPO 法人千葉自然学校 小松敬さん「子どもへの支援活動から子どもへの災害教育へ」

主催：ちばNPO協議会、NPO クラブ

NPOクラブは、
公益財団法人ちばのWA地域づくり基金を支援しています。

編集・発行
特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
(NPOクラブ)
■Tel:043-303-1688 Fax:043-303-1689
■〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂 5-21-12
■E-mail npo-club@par.odn.ne.jp
■URL <http://www2.odn.ne.jp/npo-club>
■団体会員 52団体・個人会員 90人

News Letter



Vol.50
2014.01

[INDEX]
・県内の子育て環境・・・1p
・特集・・・2-3p
子どもの育ちを支える3団体紹介
・講座案内&ちばのWA地域づくり基金
・・・4p

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

「社会で子どもたちの育ちを支える」を実現するために

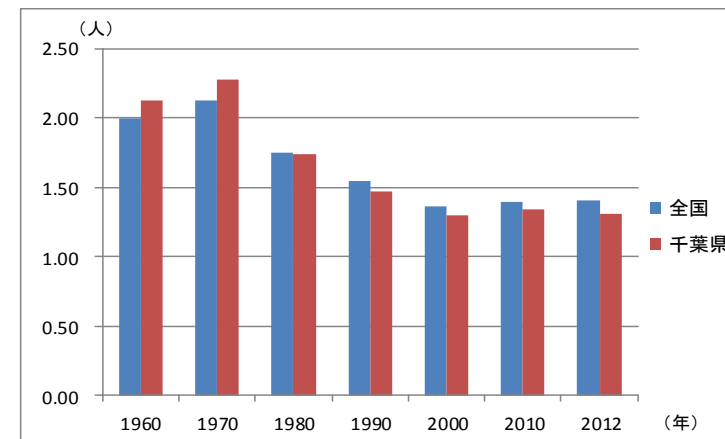
子育てがしやすい、子どもたちが心身ともに健康に育ち合える社会を実現するためには…。街中で子どもたちが遊びまわる姿を、見ることが少なくなったのは、いつの頃からでしょうか。子どもたちは、遊びを通して、自然に自分のポジションや人との関わり方を習得していきます。おけいこ事や塾があり、遊ぶ時間が取れない、何か事故があつてはという不安感から、子どもたちだけで遊ぶといったことが少なくなっているのではないのでしょうか。子どもたちは、ほとんどの時間を、大人に管理されて過ごしているとも言えます。また、子育て中の親は、我が子から離れて自分の時間を楽しむといったことが、できにくくなっていると思われます。

千葉県の合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に生む子どもの数を表す)は、昭和51年に2.0を下回ってから一時的に上昇したものの低下傾向が続き、平成15年の1.20から上昇に転じ、平成24年は1.31(全国1.41)で、前年と同率(全国1.39)でした。全国順位は40位となっています。「人生の伴侶を得て、子どもを生み育てる」というライフプランが、普通のことではなくなっているのではないのでしょうか。安心して子どもを産み、子育てを楽しむことができる環境づくりのための行政施策とあわせて、市民の主体的な活動が期待されます。

千葉県内には、20の児童養護施設があります(平成26年1月現在)。児童養護施設とは、様々な理由(保護者がいない・虐待されているなど)で、親と一緒に暮らすことのできない子どもたち(およそ2~18歳)が暮らす、児童福祉法で定められた施設のことです。かつては、孤児院と呼ばれていました。全国でおよそ570の施設があり、31,000人の子どもたちが暮らしています。そして、施設に暮らす子どものほとんどが、中学や高校を卒業すると同時に、社会へ巣立っていきます。「保護者がいない」状況で、直ぐに社会的な自立を求められる子どもたちにとって、住まいや生活用品の確保は大きな負担となります。退所した後の子どもたちの生活支援が必要と思われます。

次ページ以降で、県内の市民団体の活動を紹介いたします。

〈合計特殊出生率の推移〉



平成24年千葉県人口動態統計より

子どもの育ちを支える

どの子ども、どんな環境でも健やかに成長できることを願い、地域で子どもたちの育ちを支える活動をしている団体を紹介し、子どもや子育てする人のニーズに寄り添い、新しい社会的な価値をつくり出し、提供しています。

子どもや子育てする人のニーズに寄り添い、新しい社会的な価値をつくり出し、提供しています。

NPO 法人たからばこ

10年ほど前に、旧三芳村（現南房総市）に移住してきた理事長の武田由美さん。特別支援学校小学部2年生になる走馬くんが発達障がい診断を受けたのは、2歳の時でした。それからこれまで、発達障がい児の親だけでなく、医師、言語聴覚士や学校の先生といった周囲の専門家も巻き込んで活動を続けてきました。2009年に9人で立ち上げた「たからばこ」は2013年3月に法人化し、現在は、会員52名、賛助会員17名とその輪が広がっています。

発達障がいの子供たちは、周囲の人たちとのコミュニケーションが取れず、偏見を持って見られることが多々あります。障がいを特性ととらえて、その子の持つ能力を伸ばしてあげることができたら、「たからばこ」では、発達障がいに関する理解を広げるための講演会の開催、障がい児やその親、医師や言語聴覚士が参加する定例会や合宿、学習支援のための「たからルーム」の運営などを行っています。

障がい者支援の枠組みを超えて

たからばこ事務所は、以前は焼酎バーだった所。高い天井の下、大きなテーブルと座り心地の良いソファが設置されています。お茶会や「たからルーム」の開催日以外でも、武田さんの車が停まっているのを見ると、みな立ち寄ってくれるとのこと。「事務所の管理費、人件費の確保は大変だけれど、活動の継続と事業性を大事にしつつ、ゆるやかにネットワークを広げていければと思います」と武田さん。

親も医師や言語聴覚士といった専門家も、支える、支えられるといった関係ではなく対等でありたいと「たからばこ」の活動の中では、互いに「ゆみちゃん」「マスター」といった「たからネーム」（愛称）で呼び合っています。誰もが、自分なりの意見を言えることを大事にしている中で、子どもから学ぶこともたくさんあるとのこと。障がいのあるなしに関わらず、人と人がまあるく繋がり、暮らしやすい地域を作ることができたという「たからばこ」の活動は、障がい者支援の枠組みを超えて着実に地域に根付きつつあります。



NPO 法人たからばこ

〒294-0826 南房総市三坂 274-1

TEL/FAX 0470-28-4710 E-mail takarabako@cronos.ocn.ne.jp
http://awatarabako.jimdo.com/

市原子育て応援団

市原子育て応援団は設立から11年、「子育て中だからガマン」ではなく「子育て中だからこそできる」活動を楽しむボランティア団体です。取材に伺った日は6人のスタッフがミーティング中。おもちゃや絵本を手にしたチビさん達も加わって、2014年の活動内容が少しずつ決まっていきました。

「いちほらパママフェスタ」は子育て中のパママ自身が才能や特技を発揮できる企画、そのための準備を半年かけて行います。昨年、市原市と共催した第2回フェスタは1200名が来場。ママ3人で「営業チーム」をつくり市内の企業を回り、61社から協賛金を得る実績をあげています。

親がリフレッシュして楽しめる機会を作る

「ママのためのリフレッシュ講座」（月1回）、Nobody's Perfectプログラム（連続講座）は別室託児（10組）で、ブログで募集するとすぐ定員に達するとか。

子育てサークルなどに手配りする情報紙「あんと」（年4回・2000部発行）は読者が知りたい内容を丁寧に取材しています。定例の幼稚園特集号も人気ですが、最新の認可外保育園特集号も待たれていた内容です。

スタッフの田上聖子さんは「転勤で市原に来たら、子育て中の親を支援するような情報や場所がなんにもなかった。どこに声として届けていいのかもわからなくて…。応援団のブログに出会って、イベントに出かけたことから活動に参加するようになりました」とのこと。

応援団が子育て中（主に未就園児）のママ対象に行ったアンケートでも、「託児付きでリフレッシュできる講座」や「子どもと一緒に安心してお昼を食べられる親子Cafe」への要望がとても高いことがわかります。活動で得たことを地域に還元していきたいと、応援団は今年の秋頃にNPO法人格取得をめざしています。



市原子育て応援団

おうえんブログ <http://ichihara.jugem.jp/>
E-mail ichiharakosodate@yahoo.co.jp
<http://www.ichihara-kosodate.net/>
<https://www.facebook.com/ichiharakosodateouendan>

はぐくみの杜を支える会

2013年9月1日、君津市に児童養護施設「はぐくみの杜君津」が開所しました。社会福祉法人生活クラブが運営し、2014年1月現在、1歳から中学生まで10人の子どもが暮らしています。様々な理由で家族と暮らせない子どもたちを受け入れる児童養護施設は、基本的に国や県の費用で賄われます。ただ、子どもたちにとって「当たり前暮らし」に必要な部分の支出まで余裕があるとはいえません。また、18歳になると施設を退所しなくてはならず、資格取得や一人暮らしのための費用が必要です。

こうした生活支援・自立支援等を行う団体として2013年4月に「はぐくみの杜を支える会」が設立されました。

養護施設の子どもの暮らしと自立を応援

チャリティコンサートや映画会、施設見学会などを重ねて会員を募り、個人会員1300口、団体会員90口が寄せられています。今後、施設でのボランティア養成講座も定期開催します。

退所する子どもたちの自立を支える資金として設置した「はばたき基金」は（公財）ちばのWA地域づくり基金の事業指定プログラムに採択され、寄付募集額120万円に対して約99万円が集まっています。



はぐくみの杜・君津



はぐくみの杜を支える会・会員向け施設見学会（2013年8月開催）

「大勢の方が会の趣旨に賛同してくださって嬉しい。生活支援費は使途を定めず使ってもらえるお金として提供します。また自立支援費として積み立てられる金額を増やし、将来的に県内の児童養護施設に広げられる仕組みをつくりたい」と事務局長の久保貴子さん。

来年度は6つのホーム（各6~7名、計40名）が定員に達し、日々の暮らしが回り出すはず。支える会も、頼もしいサポーターとして伴走していきます。

はぐくみの杜を支える会

〒299-1104 君津市糠田 64-1
TEL/FAX 0439-32-2270

E-mail hm.sasaerukai130420@gmail.com
<http://www.hagukuminomori-saerukai.vaic-cci.jp/hagukuminomori-sasaerukai-top.html>